



令和7年 多気営農センターだより



平素は、JA事業に格別なるご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

令和7年産水稻については、現時点で大きな被害もなく順調に生育していると思われます。しかしながら、今年度もカメムシの発生については多いと予想されますことから、今後の防除を下記の水稲管理を参考にさせていただきますようお願い致します。

水稻



今後の管理は、登熟・品質に影響する重要な時期となってきます。気候の変化に耐える米作りには、登熟期に稲が元気である事が重要です。

生育後期の管理

出穂期以降、気温が高く推移（出穂期20日間の日平均気温が27度以上）すると白未熟粒や胴割粒が発生しやすくなります。白未熟対策として

☆幼穂形成期以降は間断灌水に努め、登熟期まで根の活力を維持できるようにします。間断灌水ができない圃場では、常時湛水とせず足跡に水が残る程度とし、数日ごとに田面水を新鮮な水に入れ替えます。

☆出穂前後は十分に湛水することにより、登熟初期の登熟障害が軽減します。

☆出穂期以降の高温が予想される場合は、耐暑肥として出穂10日後頃に窒素成分で、1kg/10a（ぎんひめ穂肥15kg袋の場合7kg・化成肥料17-0-17の場合6kg）を施用します。

ぎんひめ元肥・ぎんひめ一発を使用されている方は、必ずぎんひめ穂肥を使用して下さい。

本田防除

いもち病菌の生育適温は、25～28度で稲の感染適温は24度となります。降雨が2日以上続き最低気温が17度以上となると、約1週間の潜伏期間後、発病します。7月・8月が低温傾向になると、いもち病の多発が懸念されます。また、6月末時点での斑点米カメムシの発生予想はやや多く、状況に応じて追加防除を行うなど丁寧な防除をお願いします。

参考薬剤は下記の通りです。

ノンプラスバリダダントツフロアブル

⇒ いもち病・紋枯病・カメムシ類等 収穫14日前まで 使用回数2回以内
希釈倍数 1000倍

ブラシンバリダフロアブル

⇒ いもち病・紋枯病 収穫14日前まで 使用回数2回以内 希釈倍数 1000倍

キラップフロアブル

⇒ ウンカ類・カメムシ類 収穫14日前まで 使用回数2回以内
希釈倍数 1000～2000倍（1000倍推奨）

スタークル液剤10

⇒ ウンカ類・カメムシ類 収穫7日前まで 使用回数3回以内 希釈倍数 1000倍

☆10aあたり100ℓを目標に穂揃期を目安に散布してください。



果樹



カメムシ発生注意報が発表されています。圃場で飛来を確認したら基幹防除に加え、防除暦を参考に追加防除を実施してください。

柿

7月中旬基幹防除

落葉病・うどんこ病等	オンリーワンフロアブル	3,000倍
カメムシ・ヘタムシ・カイガラムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍
※スタークル顆粒水溶剤/250gは現在メーカー欠品となっております。		

ご迷惑おかけしますが、100g・500gの在庫ございますのでお願い申し上げます。

7月下旬基幹防除

ハマキムシ・カメムシ・ヘタムシ	テッパン液剤	2,000倍
-----------------	--------	--------

みかん

7月上旬～中旬基幹防除

カミキリムシ	ガットサイドS	1.5倍
	または アクセelfフロアブル	200倍

7月中旬（果実肥大期）

黒点病	Mダイファー水和剤	600倍
ミカンハダニ・ミカンサビダニ	マイトコーネフロアブル	1,500倍
カイガラムシ類	トランスフォームフロアブル	2,000倍



肥料・農薬など栽培に関するお問い合わせは



多気営農センター39-6170 または各営農指導員携帯へご相談ください。

☆令和7年産用 米袋のとりまとめについて

取り纏め期日を過ぎましたが、お忘れの方は早めにご注文をお願い致します。

価 格 → 出荷用袋107円/1枚 保有米袋91円/1枚

※出荷用袋については、農協出荷以外には使用しないようお願い致します。

米袋の配達につきましては、7月下旬頃より実施させていただきます。

○多気営農センター7月の営業時間について

平 日 → 午前8時45分～午後6時まで

土日祝日 → 店舗休業

お間違えのないように宜しくお願い致します。